第四章 第一方面軍直轄兵團の作戦

第一節 第百二十八師團の作戦

第一、対蘇作戦実行期の状況

一、蘇聯参戦直前の態勢

関東軍作戦方針の変更に伴ひ当師団は第三軍司令官の命により羅子溝及大城廠附近に堅固なる陣地を構築することとなり昭和二十年五月下旬乃至六月中旬の間左の如く態勢を変更す（但し⊗印を附したる部隊は七月下旬編成完結す）

イ、兵力配置（詳細誤り多きことを想う）

イ、駐屯地警備を第一国境守備隊（長人見中佐）に移譲せしめる

ロ、国境守備の為各展望所には一分隊内外の兵力を駐め之が支援として白力山子に歩兵一中隊を配置し動務上第一国境守備隊長の指揮を

ハ、師團司令部

⊗ニ、師團挺進大隊

ホ、歩二八三聯隊

ヘ、歩二八四聯隊

⊗ト、歩二八五聯隊

⊗チ、砲一二八聯隊

リ、工兵隊

ヌ、通信隊

ル、輜重隊

ヲ、病馬廠

羅子溝分遣隊廠舎に住置す

老黒山歩二八四聯隊兵舎に於て訓練中

大城廠東方山地に野營、内一大隊は大城廠西方約十粁の山地に野營す

太平溝東方山地に野營、内一大隊は羅子溝東北方山地に野營

老母猪河東方及東北方山地に野營、別に集成三中隊は太平嶺西南方山地に廠營

各一大隊を各歩兵聯隊に配属、聯隊本部は歩二八四聯隊と同所に位置す

羅子溝東南方山地に野營、各一小隊を各歩兵聯隊に配属す

老母猪河北方平地に野營、有線小隊の主力を以て羅子溝―大城廠間に電話線架設

無電小隊中一班を師團司令部に一班を歩二八三聯隊に配属す

大興溝に住置―主力を以て羅子溝―大興溝―大城廠及羅子溝―老黒山間の輜重輸送

羅子溝分遣隊廠舎に住置す

1814
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ワ、野戰病院　羅子灣分遣隊敵倉に開設、一部は大城敵に幕営して開設す

2、戰力狀況（詳細不確實、記述所要上金せざるべからざる）

イ、師團總員。定員約二万三千の所現在員約一万四千

ロ、馬匹總數。約八千

ハ、兵器。火砲は山砲數門未着の外定數を充足す

重輕火器は概ね定數を充せるも擲彈筒は約1/3不足せり

小銃は略ぼ充足せるも軍刀帶劍の缺なる者若干あり

對戰車肉迫攻擊用兵器の見るべきものなし

二、幹部の指揮、統御に關する能力及部隊の精神的團結及は向上の餘地大なり

3、作戰準備の程度

イ、築城（昭和十年）

本年九月中に完成を目標として企畫せられたる洞窟式築城は諸種の悪條件の為進捗意の如くならず重要なる地点の工事は文代制により晝夜兼行せしめたるも八月始めに於ける狀況は本年十月中に完成し明春融雪と共に陣地を完成の目途なり但し地表の工事が積雪の為実施し能はざるに至るも地中の諸施設は極力之が進捗を図ることとせり

悪條件の重なるもの次の如し

イ、今春積雪中現地を踏査せるところにより決定したる陣地は夏季樹葉繁茂期に於ては著しく射界を狹小にし攻者の隱蔽接近容易となりし為側射、斜射の施設を強化するの必要を生じたること

ロ、地形（ところ）岩石多く爆薬及鑿岩用器具の必要特に緊要なるに拘らず其の補給甚だ不良なりしこと

ハ、幹部の特殊築城の指導能力及兵員の之が作業力缺乏せること

二、鐵道沿線より離隔せる土地に於て困難なる作業に従事する部隊に對し糧秣の補給至難にして一時は減食（を始め栄養を低下する）の止むなきことあり申しこと

ホ、船舶作業部隊は現地に野営し、[illegible]用船[illegible]耐寒[illegible]臨時構築物を工事の傍ら実施するを要したること

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

4. 部隊の狀態

師団は昭和二十年四月上旬其の大部の編成を完結したるも八月開戦に至る間新編部隊の編成担任、幹部以下関東軍の企画による集合教育、補充兵教育の入隊、逐次に二乃至三次に亘る朝鮮人補充兵の入隊、防衛工事の為の轉営に伴ふ各種複雑なる事項の處理、工事の実施等の為悉く殺せられたり殊に第一師団は挺進大隊、歩兵二八五聯隊及野砲兵二二八聯隊の如く七月下旬漸く其編成を完結したるものあり就中挺進大隊は編成完結と相前後して大隊長山下大尉は急病の為新京陸軍病院に入院し歩兵二八五聯隊大隊長尾大尉も急遽之に替はる事の如き故あり部隊の陣容に伺とうなく何となく落着かざる狀態に於て為組を執て幹部以下の実際的教育を励行し各其の任務の遂行に全力を尽しつつ開戦に至れり

七月下旬第一国境守備隊は独立混成第百三十二旅団に改編せらる（挺進隊）

二、蘇聯参戦当時の情況

遠く今春以来数次に亘る蘇聯機の越境飛行、近年北方観察基地附近に於ける不法越境等を始めとし敵側国境附近陣地に於ける幹部らしき、ものの出没等敵の攻勢を思はしむる徴候なきにしもあらずしも大局上近く蘇軍の侵攻を見ざるものと過信し国境警備を厳ならしむべく要求し鋭意工事の進捗を督励中八月八日夜半彼我不明の飛行機羅子溝上空を飛翔す八月九日一時頃東寧方面に於ける先づ東安村合置隊蘇軍の奇襲を受け二時乃至三時の間白刀山子方面の展望所も逐次敵の奪取する所となり其の後の狀況不明なり、翌暁前頃より東寧市街地に敵巨砲の集中射撃あり独混の各陣地要部は天明前より敵の砲兵及機関銃の猛射を受け我方亦直ちに應戦備に就き之と交戦し極力敵の前進を拒止す

師団長は逐次入手せる前記狀況に基き不取敢各工事実施部隊を現工事線に配置して敵の攻撃に備へしむると共に其等陣地に弾薬糧秣を集積し各部隊長を羅子溝戦闘司令所に集合を命じ上司の命を待つ

開戦と共に東軍陸軍病院は大佛殿に老虎山及城子溝陸軍病院は羅子溝に退避し以後長の指揮を受けめる

0950

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、爾後の作戦（戦斗）又は行動経過

八月九日十時頃對蘇作戦に関する第一方面軍司令官の命令を受領し師団は新たに其の指揮下に入ると共に独混一三二旅團（既設陣地占領部隊として二大中中小4二SAP）を師團の指揮下に入らしめ概ね現工事線を占領して当面の敵を拒止すると共に第三軍及第五軍の翼側を掩護すべき戦斗任務を與へらる。

一、軍隊で招致してある各部隊長（独混を除く）に對し作戦に関する合同命令を下達す

部署の要旨左の如し

1、独混一三二旅團長東寧支隊（前記部隊）を現既設陣地に残置して敵を拒止せしめ主力を以て成るべく速に大城廠に轉進し在大城廠部隊（歩一大隊欠）を併せ指揮して大城廠支隊となり師團主力の左側背を掩護すると共に穆稜―大城廠道を確保して第五軍右翼兵團（第四師團）の右側背を掩護せしむ

（註）本命令の要旨は直軍の作命受領後直に伝達せんとしたるも独混は未だ無線電を有せざる為有線電話を以て暗號文を送付し辛うじて午頃伝達を終りたるも旅團長の位置は隔絶しありたる為戦況上十四時頃伝達し得たり

2、國境守備隊（各展望所）は現位置を続行せしむ

3、在白刀山子中隊は敵の圧迫を受くるに至りたるも其の前進を遅滞せしめつつ老黒山方面に退避し午後老黒山―黒嶺―羅子溝道上に於ける敵戦車の前進を阻止せしむ。師團は速に大隊と協力に勉めしむ

（註）2、3は白刀山子中隊長に電話伝達す

4、師團主力方面

イ、右地區隊

長歩二八四聯隊長　坂吉大佐

歩兵第二八四聯隊（旧白刀山子中隊欠）

野砲兵一二八聯隊（一大隊欠）

現工事線に沿ひ堅固に陣地を占領し老黒山―羅子溝道及其の西側

1817
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

地区を前進する敵を拒止せしめ、師団主隊進出大隊を支援して特に戦車の前進を阻止すべし、羅子溝東北方の陣地は左地区隊に移譲すべし

ロ、左地区隊

歩二八五聯隊長　阿久刀少佐

野砲兵一二八聯隊の一大隊

羅子溝東北方陣地及老母猪河東方陣地を占領し当面の敵を拒止すると共に羅子溝ー大城廠道方向より来る敵戦車の前進を阻止すべし、又右地区隊の前地を失効すべし

ハ、師団主隊進出大隊（砲兵一を附す）

黒山西方右地区隊前地特に老黒山道方向より来る敵戦車の前進を阻止せしむ

ニ、工兵隊（一小隊欠…左大城廠）

羅子溝東南方に於ける師団の陣葉、地雷敷設を完成し後命を待たむ

ホ、通信隊（各部隊部隊欠）

主力を以て羅子溝に位置し現位置を強化せしむ

ヘ、輸送隊

大城廠方面の補給を大城廠ー康京、或道に変更し老黒山ー羅子溝道の輸送を撤し羅子溝ー大興溝間の輸送力を強化せしむ

ト、後備隊

歩二八三の一大隊（大城廠西方約十粁に主要中の大隊）

歩二八五の一大隊　羅子溝西南飛行場北端に位置せしむ

5、独混一三二旅団方面の情況

旅団長は大中佐を以て勝関山及其の北方の既設陣地を死守せしめ其の掩護の下に弾雨を冒し陣地の背後に第一線の諸隊を集合せしめ二個隊となす

主力左側隊は東寧ー河沿ー大城廠道を右側隊は近く之に併行する道路を大城廠に向ひ前進中綏芬河及穆稜方向より南下する敵戦車部隊及敵航空機の襲撃を受くること三度、之を撃破しつつ旅団長は十三日夕刻

09552

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊は十四日午前中に大城廠に到着し大城廠支隊としての任務に就く
師団長は下山参謀、佐々木砲兵参謀を伴ひ十三日夕刻大城廠に到り鬼武少将
と面接して同戦以来の状況を聴取し地形と部隊の現況とに鑑み集約
的に（こんぎょく）陣地を占領せんとする支隊長の企図を承認し十三日以
来当面の敵の逐次老黒山方面に撤下の徴候あると稜線方面の砲声減
弱なる現況上特に大城廠、稜線道方面及大城廠、四維子溝道方面の
警戒を厳にし敵戦車の破壊、阻止の準備を尽すべきことを要望し
十四日二時四維子溝に帰還す

6、師団主力方面の状況

十日より十二日に亘り鬼武兵団の転進を妨害したる敵戦車兵団は十三日
夕刻（軍旗二月至三月）を有する猛撃兵団と相前後して老黒山に進入し
たることは確実なるも其後の状況不明なる内に十四日未明右地区隊陣地前
に敵の猛戦車数台現出し偵察中なりとの報に接し陣地前に於ける
戦車阻止破壊の有効なりしを到着す、然れども右地区隊は後退部隊二中隊を前地に派遣したるも及ばず天明と共に右地区隊は優勢なる
戦車及砲兵を有する敵部隊の攻撃を受け全力を尽して防戦に努めたる為
死傷続出し我火砲及全部火器の損失は逐次増加の敵砲の集中射
撃により破壊せらるるに至りたるも將兵身を挺して防戦に努め火力と逆襲とを併
用して陣地を死守し陣内各所に格闘して敵を撃退す
右地区隊長は万一軍旗を焼却し敵に渡さざる為を考慮して
（神旗焼き）
（生）司令部に之を（立籠）（焼）て後事を依頼し午後二時頃遂に敵火の為陣
内に戦死す砲兵聯隊長も既に我火砲の用なきを知るや奮迅敵中
に突入し之と相前後して敵に戦死す（道）壮烈なる戦死を遂げたり
二午頃より右地区隊及大城廠支隊長との電気的連絡杜絶し師団の戦斗
指揮極めて困難に陥り
十六時師団長は紹芳河左岸に沿ひ車行して右地区隊方面の戦況を
観察したる結果と諸情報を綜合したる結果兵力を増強して右地区隊の陣地

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を維持せんことを企図する（ことを新命して）軍司令官太平嶺西南方の第二線陣地に據りて作戰を遂行する外策なきことを判断し左の如く處置す

(一) 方面軍司令官に戰況を報告し次で採らんとする決心「処置」の認可を受く

(二) 豫備隊たる歩兵八五の一大隊（野砲兵一中隊を配屬す）をもて即時出發

(三) 飛行場南端附近に陣地を占領して師団の転進を掩護せしむ

共に本後成るべく長く敵の前進を阻止して我が本陣地帶を秘匿し止むを得ざるに至らば陣地を撤し兩側の樺皮甸子に集合して後命を待たしむ（但砲兵中隊は本道上を後退せしむ）

左地區隊長（現）は即時陣地を撤して太平嶺西南方山地に於ける既設陣地帶を占領し羅子溝方向よりする敵の前進を拒止せしむ、天明後特に陣地を秘匿することに努めしむ

砲兵一中隊を飛行場南端に急行せしめ旧師団司令部豫備隊長の指揮を受けしむ（該砲兵は作戰終了後指揮に復帰せしむる予定）

(四) 豫備隊各右地區隊は日没迄現陣地を死守し本後各隊先任者の引率を以て飛行場を経て樺皮甸子に集合せしむ

(五) 在羅子溝の諸部隊は本夜午一時出發し得る如く待機せしむ

二十一時待機中の諸隊を部署して行軍序列を命じて羅子溝を出發し翌拂曉迄に逐次樺皮甸子附近に到着す、大休憩の後諸隊に新任務を與ふ幸いにして敵は追撃し来らず為に陣容を整ふを得たるも転進中羅子溝附近より大興溝方向に避難する民衆（大部は朝鮮人）の牛車馬車絡繹として著しく我行動を妨害せり、又旧右地區隊に對する命令の徹底至難にして十五日二午迄に漸く二百名内外を集結し得たるに過ぎず、一部は夜間誤って大興溝方向に到れしもあり動車を使用して樺皮甸子に移動せしめたり

樺皮甸子到着後の主なる部署左の如し

1、野戰病院（張家店に位置す）

病馬廠（張家店に位置す）

（樺皮甸子より大興溝の中間飛行場あり部落）

（張家店に位置す）

但病院同設の為には先任者たる光黒山陸軍病院長をして区署せしむ

1820
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2. 通信隊　　樺皮甸子に位置―師団司令部―歩二八五聯隊本部間の電話連絡を新たに完施する外従前の通り

3. 豫備隊　　旧右地区隊及工兵隊（一小隊）　樺皮甸子に位置す

師団長は十五日早朝樺皮甸子に於て（即ち）は当日を以て本日（豪）（既設陣地を大城敵支隊をして八徳山を占領し高粱を続行すべき方面に集合せしめ）

十六日朝未前進陣地に對し敵戰車部隊進出すると共に敵砲兵は飛行場東北端附近より猛火を集中―その掩護のもとに歩兵部隊は逐次両翼を包囲するかく前進―来る（我が）八時前進陣地を撤―豫定のかく後退せしめたるも森林は雜木密生―林内は雜草刈除繁茂―行動意のかくなるを為に方向を失―連絡至難にして終戰時迄に樺皮甸子に集合するもの極めて僅少なり

八時半頃敵戰車数台本陣地前に（よく遠敵―ある我が）肉迫―来り我砲火の集中により其の五台を樹生せしめ他を潰走せしめたるも我が火砲の陣地も亦敵戰車砲の集中火を被り道路南側の我が火砲は殆ど破壊せられ軍部以下死傷多―然れども我が本陣地はよく敵眼敵火に遮蔽―あり―為敵の砲兵は終戰時迄遂に射撃せず敵歩兵も徒らに森林内を彷徨―て盲射を為すに過ぎず戰況（一時）停滞すと雖も各方面共銃声止まず

之よりさき金家屯方向より右側背に進入―たる戰車十数台を有する約千五百の敵は十五日夕刻大興溝方向に前進中との報に接―輜重隊長鶴田少佐は附近に居合せたる兵員を召集―て輜重隊に協力せしめ大興溝南側に於て之を拒止するに決―徹宵防備を厳にして敵火を偵察（十五日夕方）十六日朝未此の方面の敵は戰車と協同して逐次接近―来り九時頃（百方手段を尽し）戰況（熾烈）となる（我が）方には一門の火砲もなく装備極めて劣悪なる歩兵のみよく（百方手段を尽し）と抗戰―も停戰に至る迄大興溝を確保―て師団の背後を安全ならしめたり

（新たに八徳山線を防禦命令を後戰後之を受領せりとあり）

大城敵支隊方面に於ては亦来敵の攻撃を受けすと雖も師団及陣地兵団との通信杜絶―辛うして乗馬伝令の齎―たる報告により十五日敵戰車隊に侵入せる模様なると穆稜方向の砲声漸次西方に移動するが如き判断せらるるに鑑み更に西方面に兵力を増強―て警戒中十六日午前敵の戰車十数穆稜方向より南下来るに對―準備せる（）砲火を以て之を急襲―其の三台を破壊―他を潰走せしめたり（後略）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、彼我の損害（兵力推定に迄まで、帰趨後未だ本軍に明かならず、今日明かならず痛（一部）

八、敵に與へたる損害（戦史の状態と樹系、雑草繁茂せる地形上推定を主とす）

十四日　羅子溝方面右地区隊　　戦車（砲）殺傷約五〇〇

十六日　輝皮甸子方面　　戦車五　殺傷約一五〇

同日　大興溝方面　　戦車二　殺傷約一五〇

十四日乃至十五日　鬼武兵団　　戦車一　殺傷約二〇〇

十五日　大城敵支隊　　計　戦車三五、殺傷約一〇〇〇

（五）に敵の兵力は少くも戦車一師団（砲兵力強大）狙撃歩兵三聯隊と推定す

2、我軍の損害（未だ調査未了にして推定を主とす）

十四日羅子溝方面右地区隊

（1）戦死及行衛不明。　全兵力の約1/3（第二八四長松吉大佐、同大隊長早川大尉、福本大尉以下三人長勝又少佐　等の戦死せることは確実なり）

（四）負傷。　全兵力の約1/3　（ハ）火砲、重機。　全壊して使用に堪へず

右地区隊の前地に行動せる挺進大隊、自力出ずる守備中隊は不明。因境整備隊は殆んど全滅したるならん

十六日　輝皮甸子方面

（1）戦死及行衛不明。　全兵力の約1/5　（ロ）負傷　1/100　（ハ）火砲の破壊　約1/3

十六日　大興溝方面。

（1）戦死　全兵力（約六〇〇）の　1/50　（ロ）負傷　約1/20

総計、十四日乃十六日の戦斗に於て受けたる師団（鬼武兵団を除く）の損害推定左の如し

（1）戦死及行衛不明　約四千五百　負傷約二千

東寧支隊として既設陣地と新生を共にしたる部隊の消息は不明なるも本国[illegible]

[illegible]八月廿七、八日頃迄約一百五十名内外の守備兵頑強に抵抗を続けありしものの如し

鬼武兵団の損害は不明なるも東寧支隊の前記生存者以外を戦死と推定す

（不）戦死及行衛不明　約三千　負傷約三千

大城敵支隊[illegible]

五、終戦時の情況

陸軍部隊の戦力

[illegible]

蘇軍との交渉

十六日十一時頃方面軍の通報により十五日停戦に関する大命渙発を知り事の意外なるに恐惶すると共に「各級指揮官（直ちに）其の方面蘇軍指揮官と協定して停戦し其の指示に従わせ命令を受領し渙発を敵んで其を伝達する為有ゆる方法手段を尽せり」

（之に従い本命令を）

09556

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十六日十三時樺皮甸子～羅子溝道上に我が軍使を派遣したるに敵銃火の集中射撃に逢い將校一通訳一戦死せしめて軍使を斬合して帰遂せしめ敵者攻撃し来らざること決戦すべきの決意の下に戦闘司令所を歩兵八五聯隊本部の位置に進め警備を厳にして状況を観察するに日没と共に本道方面に於ては敵は破壊せられたる戦車を牽引し去らんとするものの如く其の銃撃を加医せんとする為か本道西側の陣地に対し小銃の乱射を為して我を牽制する模様なるも我は隠忍して敢て應戦せず警戒を厳にして之を監視するに止めしめたるに夜半戦車来たり牽引し去りたる後は次第に戦場静寂となりたるを以て堪能部戦闘司令所を旧位に復したり

十七日九時敵方より軍使来り第八五聯隊長に對し停戦して武装を解除すべき旨を伝ふ師団長は之の情況を知れる以方面最高指揮官と面接したる後武装解除其の他第般の協定を為すべき旨を告げたるに右は敵方面戦車師団長の命なる旨を知り諸隊に傳達して兵器弾薬一切を集積して麓側に引渡すべく準備し且つ部下を戒めて軽挙妄動を敢てせざるよう注意すべし近く敵戦車師団長自ら出張し注情に来る以方面最指揮官の指示を受くべき旨要求すべし（敵は到着すべき）

十四時誤報を解する二將校を不取敢注情に派遣して指示を受けしめたるに十八日午後蘇軍第廿五軍司令官の受領して帰遂し師団長自ら速に注情に来るべき旨を伝ふ（中略）

（敵に十分な武装解除を命じ）

（敵は十六日午後三時頃該方面の蘇軍指揮官と協定して停戦の後注情に進行せんと十八日師団司令部より派遣したる二將校（軍参謀中佐、第廿五軍参謀）と共に師団司令部に於て情況を報告す

十八日十四時師団長に参謀長を伴ひ蘇軍中佐の誘導により注情に赴く蘇軍第二十五軍司令官と面接す今後の要旨左の如し（後者は通訳戦死）

非常中の森統帥得者通訳せしめ為にて十分今後共情報する事

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

註　問及答に（　）を付せる蘇軍司令官の問答如きこの中の問答とす（第四課長）

（問）昨十七日命令したる事項既に実施せりや

答。着々実施中なるも部隊集合意の如くなるず其の完了時期は不明なり

（問）終戦時貴官の部下の服装如何

答。国旗を捨て（略す）

（問）各部隊へは停戦に関する命令は伝達せられたりや

答。師団主力方面の部隊長には直に伝達せるも遠隔地の部隊長間の電氣的通信杜絶し飛馬伝令将校を派遣中なり

（問）十四日以来の戦場に遺棄せる日本軍死傷者を捜索する為使宣を供へられたし

（答）蘇軍に於て実施す（第三課要請）

（別れに臨み十七日の命令の実施の忠実迅速なることを重ねて要求せり）

師団長の推移

十九日二千一旦樺皮甸子に帰着したる後部下と決別して再び蘇側将校の誘導により仮本部司令官を伴ひ佳木斯を経て廿日二千頃間島収容所に収容せられ月末入蘇ヴォロシーロフ収容所に約一ヶ月収容の後更にバロヴスク収容所に収容せられたり二十五年四月十五日頃帰国す

仮本部司令官は八月十日頃入蘇ハバロフスクの収容所に於て別行動をとりたるもの

師団主力部隊は二十日頃（推定）樺皮甸子出発八路参謀長の引率により金厚・間島を経て十一月上旬入蘇（せしめられたり）中央東部軍エラブカ収容所に

（内地帰還は迅速にして今尚ソ領に抑留せられあり者多し）

第四　其の他一般の状況

師団が駐屯地帯（移）駐するに方り師団長は「万一蘇軍侵入の場合を顧慮し東寧県長、居留民会長等にヒントを與へるの要あり如何」と第三軍司令官村上中将に対し合同の席上質したるも企図秘匿上不可なりとのことにて其の問題に触るること全く只上司の指示に基き管内軍人、軍属の家族の丈を敦化方面又は内地に移転せしめたり但第一国境守備隊に於ては其の必要なく万一の場合は部隊と死生を共にすべしとのことにて強要せざりき

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、在留邦人、開拓團、家族の状況（確実ならず）

1、管内在留邦人は約三千と推定せらるる其の主力約二千は東寧及其の附近に居住し大肚子川（約三百）老黒山（約四百）之に次ぎ其の他は少数に過ぎず八月九日拂暁突如として重砲弾数発東寧市街に落下したるも、国境方面の銃砲声、蘇軍の越境飛行機の飛翔に次ぐに日蘇交戦状態に入れる旨の公式発表あり居留民は直ちに非常警戒に移ると共に引揚げに着手し相当混雑せるも夕刻迄に其の大部は汽車にて去林方面（及門）に引揚げ一部は自動車を利用し僅少なる一部は軍隊と其の行を共にしつつ引揚げたり

2、開拓團は東寧東方に二箇（内第一國境守備隊司令部西側のものは当時既に無人なりき）城子溝東方に一箇あり（合計五百名内外と推定す）此等開拓員の引揚げに就ては前項と大差なきものと推定せらるる（詳細不明）

3、家族の状況（不良な軍人、軍属家族多し推定と注す）

留守宅に託したる通信なりしが開戦となるや鬼武岳雄の家族の大部は辛うじて最終列車にて東寧発去林方面に引揚げ一部は東寧支隊と共に仮設陣地に入りて（飛行機運命を共にしたるものの如し）

二、満洲國政府機関の状況

開戦後（東寧）駐在以下大部は自動車により大城廠を経て去林方面に引揚げたるものの如し其の他不明（東寧駐在は日本人なり）

三、満洲國軍及警察の状況

管内には國軍駐屯せず（又）警察官は平素専ら日本軍憲兵隊の指導下に在り（詳細不明）警察署は東寧、大肚子川、老黒山、羅子溝に在り其の他の大部流に在りの駐在員を置けり、羅子溝警察署長は開戦前（七月末）交迭し後任者未着なりしが共に日本人にて前任者は特に軍と密接に連絡あり（其の後）しが十四日夕刻軍と共に現地を引揚げたる羅子溝警察署員の行動は不明なり

四、満人、鮮人、露人等の状況（特に述ぶべきことなし）

1825
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp